

# VU (絶滅危惧Ⅱ類)

コウチュウ目 ゲンゴロウ科

## ゲンゴロウ

*Cybister japonicus* Sharp, 1873

カテゴリー判定基準：A-2

旧レッドリストカテゴリー		
1991	2000	2007
—	NT	NT

平地から丘陵の良好な水辺環境の指標種。かつては普通種であったが、開発、農薬、圃場整備により激減した。残存した中山間部の良好な里山環境でも、ゴルフ場造成や侵略的外来種の侵入、老朽化ため池改修事業、採集圧の影響を多大に受け絶滅寸前である。早急に保全しないと、山間部にしか残らないであろう。

*Cybister japonicus* is an indicator species of good-quality wetlands from plains to hills. It was a common species, but it drastically decreased due to development, pesticides and rearrangement of rice paddies. Its remaining habitat of good-quality Satoyama environments in hills is threatened by golf course development, invasive species, reconstruction of farm ponds and over collecting. Without urgent conservation, it will survive only in mountainous areas.

### 基礎情報

■**形態** 体長34～42mm。体型は卵形でやや扁平。背面は緑色から暗褐色で光沢がある。前胸背から上翅側縁は黄褐色。腹面は黄褐色で一部黒色。

■**分布域** 北海道、本州、四国、九州に広く分布、国外はシベリア、中国、朝鮮、台湾。

■**生息環境** 平地から山地の、ヒルムシロ、ジュンサイなどの水草が豊富な、やや水深のある池沼やため池、水田、水田脇の水たまり、休耕田。

■**生活史** 成虫は4月に活動を開始し、5～6月に水草の茎に産卵する。幼虫は6～8月に水生昆虫やオタマジャクシを捕食し、岸辺の土中で蛹化する。新成虫は8～9月に出現する。成虫も肉食。2kmは飛翔し、灯火に飛来する。11月から水中で越冬し、寿命は3年。

### 現在の生息状況

■**分布域の現況** かつて普通種であったが、全国的に激減し平地ではほぼ絶滅した。北日本ではやや残存するが、西日本ではわずかで、太平洋側各県の生息地数は数ヶ所、南関東では絶滅。

■**生息地の現況** 東北や北陸の山間の池や、農薬の入り込まない谷津田奥のため池、放棄水田に残存するが、2000年以降の減少が著しい。

### 存続を脅かす要因

池沼の開発(12)、1960年代以降の空中散布を含む強力な農薬の大量使用(32)、水質汚染(31)、灯火、ゴルフ場造成(21)、圃場整備(15-2)による乾田化と水田脇の水たまりの消失、中干しの強化、ため池の管理放棄と放棄水田の植生遷移(53)、侵略的外来種(オオクチバス、アメリカザリガニ、ウシガエル)の侵入(52-3)、コイの放逐、業者や愛好者による採集圧(41)。

### 保護対策の現状

減農薬、中干し期の水域確保、夏季湛水、谷津田奥のため池再生、やや深い池の創出。侵略的外来種のモニタリングと排除。コイの放逐防止。採集圧対策。系統保存。これらの保護対策による効果が一部で出始めている。

### 特記事項

都市部周辺での確認は放逐の可能性が高い。

#### 参考文献

市川憲平, 2004. 放棄田ピオトープによる里の自然再生とタガメやその他の水生動物の定着. ホシザキグリーン財団研究報告, 7: 127-136.

永幡嘉之, 2007. ひとつのため池をとりまく問題—ゲンゴロウ類の生息地を維持するには. 遺伝, 61(3): 48-53.

西原昇吾・刈部治紀, 2011. 日本のゲンゴロウ類の危機的な生息現状とその保全. 水生昆虫大百科 特別展 およげ! ゲンゴロウくん～水辺に生きる虫たち～展示解説書, pp. 96-101. 神奈川県立生命の星・地球博物館.

執筆者: 西原昇吾・刈部治紀・北野忠・中島淳・永幡嘉之